写真１　開花状況　2020 年（令和２年）６月３日

写真２　花の拡大

令和２年(2020 年)に初開花・初結実した大温室の植物とリニューアル時に新規導入した主な植物の開花・結実状況について

磯部実・堀川大輔

展示リニューアルされた大温室の植物は、そのほとんどが定植または移植 3 年目を迎え、これまで順調に活着・成長している。花や果実を着けるものが多くなり、ますます展示効果を高めているが、令和２年に初めて開花・結実したものがあるので記録する。

黄花イペー（*Handroanthus chrysotrichus*）

本個体は昭和 54 年（1979 年）に寄贈された実生苗個体をバックヤードで鉢植えにして管理していたものである。平成 28 年(2016 年)の大温室リニューアル工事に合わせて樹高 2mの株を植栽し、令和２年４月に初開花した（写真 1）。黄色い特徴的な花であることから本種であることが確定した。開花後ノウゼンカズラ科特有の細長い朔果を着けた。

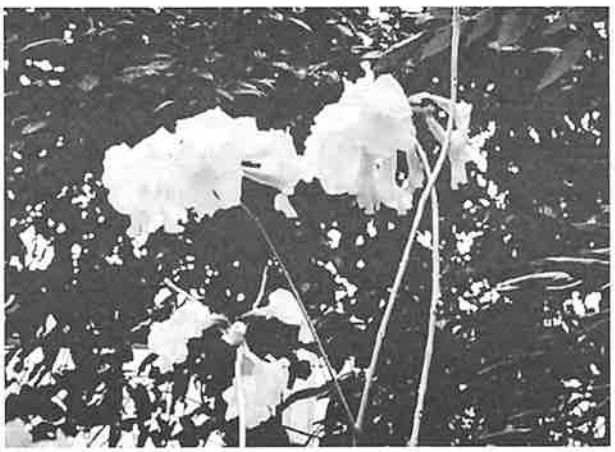

写真１　黄花イペー

クリヌム２種

現在大温室には 3 種のハマユウ属が栽培・展示されている。春～秋には 3 種とも開花し、そのうちの後述の２種は初開花であった。

種不明個体（*Crinum sp.*）は長崎県亜熱帯植物園より導入し、大温室リニューアル時に定植したものである。花色や草姿はハマユウ（*Crinum asiaticum* var. *japonicum*）に似るが茎は 2 倍程度太く、葉は立性で草丈はより高いなどの点でハマユウとは別種考えられる。（写真２）。

クリヌム　アウグスツム（*Crinum augustum*）は種

写真2　クリナム種不明個体

苗業者より導入し、しばらく鉢植えで管理していたものを大温室リニューアル時に定植した。草姿はハマユウに似るが葉の色は赤緑色、花茎から蕾の先まで赤紫色を帯び、開花時は花被片の表面は白色で本種の特色を示している（写真3）。

写真3　クリヌム　アウグスツム

ビワモドキ (*Dillenia indica*)

本個体は約20年生の樹高約5メートルの成木で、旧大温室に植栽・展示されていたものであるが、これまで開花したことはなかった。

大温室リニューアル工事に合わせて移植しこのたび初開花した。6月中旬より多数の新芽の中心に蕾が確認され、7月上旬より順次開花しはじめ、約15輪開花した。花は下向きであるが、直径約15cmで白い花弁が特徴的で目立った（写真4）。1花の開花期間は約2～3日であった。開花後萼片が肥厚し、子房部を包み直径10cmに肥大したが、1～2週間後に褐色に変色して落下した。

写真4　ビワモドキ

パンノキ（*Atrocarpus altilis*）

本個体は平成28年(2016年)に大温室リニューアル工事に合わせて、沖縄より導入した2株のうちの樹高の低い方のもので、樹高は約3mで15号のプラ鉢で管理していた。

9月中旬より新芽の中心より花芽が確認され、10月下旬には直径7cmのパンノキの特徴的な球状の果実に成長した（写真5）。ただ残念ながら、10月下旬に原因不明であるが、果梗のところより折れてしまい期待した大きさに肥大しなかった。

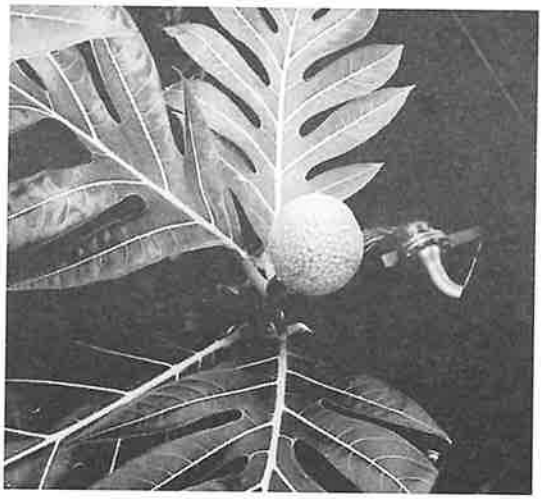

写真5　パンノキ

黄金ココヤシ (*Cocos nicifera* var. *aurantiaca*)

本個体は平成28年(2016年)に大温室リニューアル工事に合わせて、沖縄より導入、植栽したものである。

定植後新芽の成長が遅く、一部枯死部分のある異常な新芽を展開するので、害虫被害が懸念されたが、2年目には正常な新芽を展開し、令和2年3月に穂状花序に小花が多数咲き、その中の1個が受粉結実した。12月28日現在、果実は直径7cm長さ20cmまで成長している（写真6）。今後順調に大きくなることを期待したい。

写真6　黄金ココヤシ

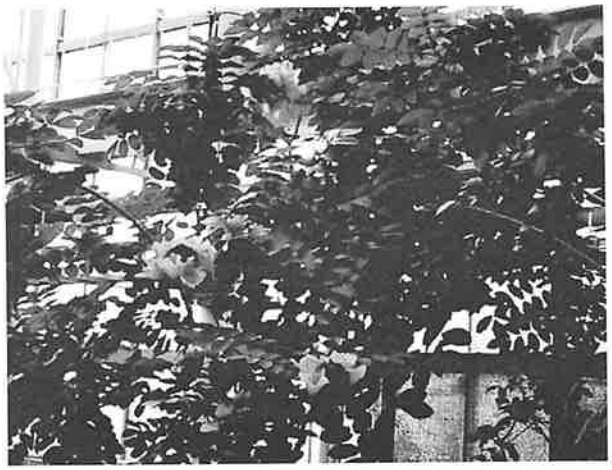

写真8　黄花カエンボク

大温室リニューアル時に新しく導入した主な植物の開花状況は、令和元年(2019年)に開花結実したものは本園栽培記録41号ですでに報告した。その中でも沖縄より導入したオオホウカンボク（写真7)、黄花カエンボク（写真8)、ゴールデン・チェーンツリー（写真9)、ヒスイカズラ（2株のうち沖縄県より導入した株は初開花）（写真10)、長崎より導入したオオバナソシンカ、桃花イペーなどは、前年より多くの花を咲かせ、合掌バナナも果実を着け展示効果は高かった。

写真7　オオホウカンボク

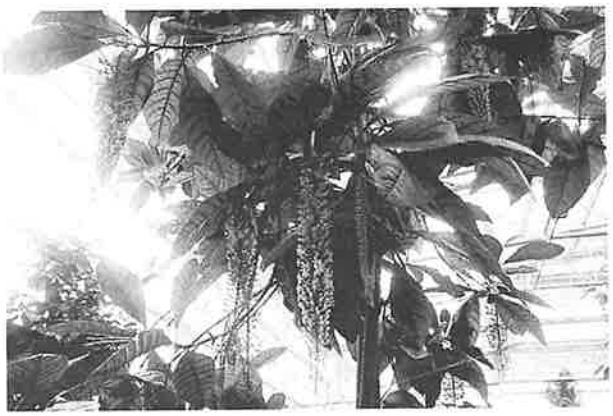

写真9　ゴールデン・チェーンツリー

写真10　ヒスイカズラ